

創刊110周年記念

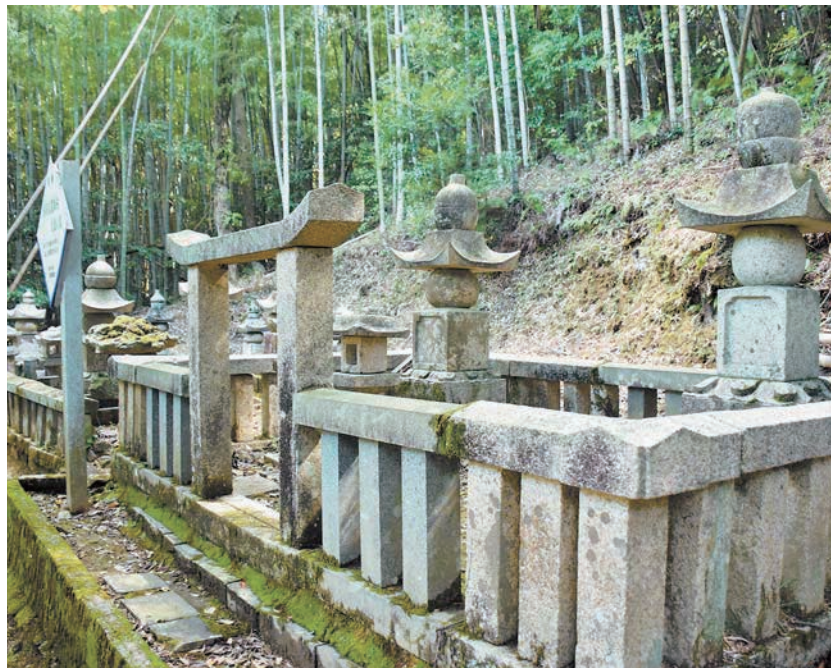
誇れるふるさと 24地区リレー

〈vol.12〉

<万倉① 特徴>

宇部市の北西部に位置する万倉地区。東西約8キロ、南北約9キロ、面積は30・3平方キロと、市内で2番目の大きさを誇る。美祿市、山陽小野田市に隣接し、のどかな田園風景が広がる自然豊かな地域として知られるが、近年は県内物流の導線にもなっている。

穀物生産に適した土地、地名の由来か



国司家歴代墓所や墓碑

県内物流の導線担う

1889年4月1日の町村制の施行により、芦河内村、今富村、矢矯村、奥万倉村、西万倉村、東万倉村の村域をもって発足した。1955年4月1日に船木町、吉部村と合併して楠町万倉となり、同年11月1日には奥万倉の一部が美祿市に編入。2004年11月の市町合併



- 基本データ**
- 面積30.3平方キロ (2位)
 - 世帯数575世帯

- 人口1184人 (21位) (男性545人、女性639人)
- 高齢化率47.0%
- 小学校児童数28人
- ※世帯数などは2022年4月1日現在

併で宇部市となった。地区名の由来は定かではないものの、よろず(万)の食料を蓄える倉

が期待されるので「万倉」と呼ばれるようになったという説と、軍船の資材として役立つ大きなクヌギが枝を張って、北東が常に真っ暗だったため「真暗村」と呼ばれていたという説がある。

地区を代表するものとしては、萩焼、大内塗と並ぶ国指定の伝統的工芸品で、約800年の歴史を持つ「赤間硯(すずり)」や、県指定無形民俗文化財の「岩戸神楽舞」がある。人物では、幕末の長州藩で万倉の領主を務めた国司信濃親相が挙げられ、禁門の変で命を落とした兵士の墓所が天龍寺に残る。

地区内には兼業農家が多く、育苗や野菜作りが盛ん。農作物としては特産の万倉なす、はなっこりー、パセリが有名だ。自然環境は米など穀物の生産にも適している

一方、地区内には県道奥万倉厚狭線、県道小野田美東線、県道宇部美祿線など物流を支える主要道路が走り、国道2号も近くを通る。

同地区「コミュニティー推進協議会」の矢原久登会長(66)はこの地区は地形的にトラック運送の交通のへそに位置し、重要な役割を担っている。これからも安心して利用してもらえるように環境の整備などの取り組みを行っていくと語る。